

「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」プログラムサロン（第2回） ファンディングプログラムの運営に資する有効なエビデンスとは

ファンディングプログラムの設計や運営においては、どのようなものが有効なエビデンス（客観的根拠）となるのでしょうか。また、エビデンスはどのように活かされているのでしょうか。

以下のプロジェクトでは、科学計量学による分析やアンケートなどに基づいて、ファンディングプログラムの設計やプログラムのマネジメントの評価に活用しうる指標・手法の開発を目指しています。今回、このプロジェクトの今後の進展の参考にさせていただくため、研究助成に携わる方々を中心に、政策立案者やステークホルダーからも広くご希望やご意見をいただく機会を設けたいと思います。

このプロジェクトにご興味のある皆様のご参加をお待ちしています。フランクな議論の場ですので、どうぞお気軽においでください。

【日時】2013年7月29日（月）17:30 ~ 20:00

【場所】JST 東京本部別館2階会議室A①（千代田区五番町7 K's 五番町）

<http://www.ristex.jp/stipolicy/site/contact.html>

【参加登録】①お名前 ②ご所属・役職 を stipolicy@ristex.jp までご連絡ください。

【参加費】100円（茶菓代）

【参考1：プログラム全体と本サロンの位置づけ】

JST 社会技術研究開発センター「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」（<http://www.ristex.jp/stipolicy/index.html>）では、客観的根拠（エビデンス）に基づく政策の企画立案や、その評価及び検証の結果を政策に反映することを目的として、平成23年度から11の研究開発プロジェクトがスタートしています。約1年半が経過した6つの各プロジェクトについては途中成果を公開して、政策担当者や研究者と情報や問題意識を共有し、現実の政策形成に活用できるプログラムにするための議論を深めたいと考えています。

今回は、その第2回目のプログラムサロンとして、以下のプロジェクトを取り上げます。

【参考2：本プロジェクトの概要】

「ファンディングプログラムの運営に資する科学計量学」

（研究代表者 東京工業大学大学院理工学研究科 准教授 調麻佐志）

従来、ファンディングプログラムは、その設計段階ではスタッフおよび専門家の経験知を、またプロジェクトの選考過程ではpeer reviewシステムを通じての専門知を活用した運用が主になされており、必ずしもエビデンスが十分には利用されていませんでした。そこで、本プロジェクトでは、選定プロセスを明確にする評価指標とその利用法や政策ニーズに適合した科学活動の可視化手法、研究者の追跡と評価およびそれに基づく人的資源活用の手法の研究開発を行うとともに、その成果を活用して、ファンディングプログラム自体やプログラムのマネジメントの評価を目的とした科学計量学指標によるプログラム横断型の分析を実施しています。さらに、成果の社会実装を促進するために、実務家と研究者の協働のための場を形成することを目指し、ファンディング業務に関わる実務家と科学計量学および周辺分野の研究者との相互作用を目的としたワークショップを継続的に行っています。（プロジェクトHP：<http://scmpf.blogspot.jp/>）

【上記内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター

「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」事務局（担当：前田、佐野）

E-mail：stipolicy@ristex.jp Tel：03-5214-0132